

# 農地等の利用の最適化の推進に関する指針

平成29年12月8日  
変更 令和5年3月10日  
八戸市農業委員会

## 第1 基本的な考え方

八戸市農業委員会は、農業委員会等に関する法律第7条第1項に基づき、農業委員と農地利用最適化推進委員（以下「推進委員」という。）が連携し、「農地等の利用の最適化」が一体的に進んでいくように、八戸市農業委員会の指針として、具体的な目標と推進方法、目標の達成状況に対する評価方法等を以下のとおり定める。

なお、この指針は、農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律案（令和4年法律第56号）による改正後の農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号。以下「改正基盤法」という。）第5条第1項に規定する青森県の農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針及び改正基盤法第6条第1項に規定する八戸市の農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想を踏まえた農業委員会の長期的な目標として、農業委員及び推進委員の改選期である3年ごとに検証・見直しを行う。

また、単年度の具体的な活動については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」（令和4年2月2日付け3経営第2584号農林水産省経営局長通知、令和4年2月25日付け3経営第2816号農林水産省経営局農地政策課長通知）に基づく「最適化活動の目標の設定等」のとおりとする。

## 第2 具体的な目標、推進方法及び評価方法

### 1 遊休農地の発生防止・解消について

#### (1) 遊休農地の解消目標

	管内の農地面積(A)	遊休農地面積(B)	遊休農地の割合(B/A)
現 状 (令和4年3月)	4,800 ha	152.9 ha	3.2 %
3年後の目標 (令和8年7月)	4,800 ha	112.0 ha	2.3 %
目 標 (令和13年3月)	4,800 ha	0.0 ha	0.0 %

#### 【目標設定の考え方】

\*単年度の目標面積は、令和4年度の「最適化活動の目標の設定等」に基づき8.18haとする。

\*但し、目標最終年については、遊休農地の面積及び割合は、「ゼロ」を目標としている。

## (2) 遊休農地の発生防止・解消の具体的な推進方法

### ①農地の利用状況調査と利用意向調査の実施について

農業委員と推進委員の農地法第 30 条第 1 項の規定による利用状況調査（以下「利用状況調査」という。）と同法第 32 条第 1 項の規定による利用意向調査（以下「利用意向調査」という。）の実施について協議・検討し、調査の徹底を図る。それぞれの調査時期については、「農地法の運用について」（平成 21 年 12 月 11 日付け 21 経営第 4530 号・21 農振第 1598 号農林水産省経営局長・農村振興局長連名通知）に基づき実施する。

なお、従来から農地パトロールの中で行っていた、違反転用の発生防止・早期発見等、農地の適正な利用の確認に関する現場活動については、利用状況調査の時期にかかわらず、日常的に実施する。

### ②農地中間管理機構との連携について

利用意向調査の結果を受け、農家の意向を踏まえた農地中間管理機構への貸付け手続きを行う。

### ③非農地判断について

利用状況調査によって、再生利用が困難と区分された農地については、現況に応じて速やかに「非農地判断」を行い、守るべき農地を明確化する。

## (3) 遊休農地の発生防止・解消の評価方法

遊休農地の発生防止・解消の進捗状況は、遊休農地の割合により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

## 2 担い手への農地利用の集積・集約化について

### (1) 担い手への農地利用集積目標

	管内の農地面積(A)	集積面積(B)	集積率(B/A)
現 状 (令和 4 年 3 月)	4,800 ha	1,213.9 ha	25.3 %
3 年後の目標 (令和 8 年 7 月)	4,800 ha	1,732.8 ha	36.1 %
目 標 (令和 13 年 3 月)	4,800 ha	4,320.0 ha	90.0 %

#### 【目標設定の考え方】

\* 3 年後の目標については、八戸市の「農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想」の政策目標を視野に入れ、担い手への農地利用集積率は 36.1%とする。

\* 但し、目標最終年については、青森県の「農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針」の政策目標に基づき、担い手への農地利用集積率は 90%を目標としている。

### (2) 担い手への農地利用の集積・集約化に向けた具体的な推進方法

#### ①「地域計画」の作成・見直しについて

農業委員会として、地域（1 集落又は数集落）ごとに人と農地の問題を解決するため、10年後

の農業の在り方と農地利用の将来像を描く「地域計画」（改正基盤法第19条第1項の規定に基づき、市町村が、農業者等の協議の結果を踏まえ、農業の将来の在り方や農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標として農業を担う者ごとに利用する農用地等を表示した地図などを明確化し、公表したものをいう。）の作成と見直しに主体的に取り組む。

②農地中間管理機構等との連携について

農業委員会は、市、農地中間管理機構、農協等と連携し、(ア) 農地中間管理機構に貸付けを希望する復元可能な遊休農地、(イ) 経営の廃止・縮小を希望する高齢農家等の農地、(ウ) 利用権の設定期間が満了する農地等について、農地中間管理事業の活用を促進する。なお、農地中間管理事業の促進にあたっては、各地域で開催する農家座談会や隔月で発行している広報誌「のうぎょうだより」を通して事業のPRを図り、農地の出し手と受け手の意向を踏まえたマッチングを進める。

③農地の利用調整と利用権設定について

管内の地域の農地利用の状況を踏まえ、担い手への農地利用の集積が進んでいる地域では、担い手の意向を踏まえた農地の集約化のための利用調整・交換と利用権の再設定を推進する。

また、中山間地域等の農地の区画・形状が悪く、受け手が少ない又は受け手がない地域では、農地中間管理機構による簡易な基盤整備事業の活用と併せて集落営農の組織化・法人化、新規参入の受入れを推進するなど、地域に応じた取り組みを推進する。

④農地の所有者等を確知することができない農地の取扱い

農地の所有者等を確知することができない農地については、公示手続を経て農地中間管理機構を通じて利用権設定ができる制度を活用し、農地の有効利用に努める。

(3) 担い手への農地利用の集積・集約化の評価方法

担い手への農地利用の集積・集約化の進捗状況は、農地の集積率により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

3 新規参入の促進について

(1) 新規参入の促進目標

	新規参入者数 (新規参入者取得面積)	
現 状 (令和4年3月)	5 ( 2.4	経営体 ha)
3年後の目標 (令和8年7月)	8 ( 4.4	経営体 ha)
目 標 (令和13年3月)	8 ( 4.4	経営体 ha)

【目標設定の考え方】

\*単年度の目標新規参入者数及び参入目標面積は、八戸市の「農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想」及び令和4年度の「最適化活動の目標の設定等」に基づき8経営体、4.4haとし、

それぞれ毎年度の目標とする。

## (2) 新規参入の促進に向けた具体的な推進方法

### ①関係機関との連携について

県、県農業会議、農地中間管理機構等と連携し、管内の農地の借入れ意向のある認定農業者及び参入希望者（法人を含む。）を把握し、必要に応じて現地見学や相談会を実施する。

### ②企業参入の推進について

担い手が不足している地域では、企業の農業参入も地域の担い手確保の有効な手段であることから、農地中間管理機構も活用して、積極的に企業の参入の推進を図る。

### ③農業委員会のフォローアップ活動について

農業委員及び推進委員は、新規参入者（個人、法人）の地域の受入条件の整備を図るとともに、後見人等の役割を担う。

## (3) 新規参入の促進の評価方法

新規参入の促進の進捗状況は、新規参入者（個人、法人）の数により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

## 第3 「地域計画」の目標を達成するための役割

八戸市において作成された「地域計画」に基づき、農地を効率的かつ総合的に利用していくため、八戸市農業委員会は次の役割を担っていく。

- ・ 日常的な農地の見守りによる農地の適正利用の確認
- ・ 農家への声掛け等による意向把握
- ・ 「地域計画」で位置付けられた担い手への農地の利用調整やマッチング
- ・ 農地中間管理事業の活用の働きかけ
- ・ 「地域計画」の定期的な見直しへの協力